

製品名: Vav (リン酸化 Tyr174) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05613**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	100kDa

抗原情報

遺伝子名	VAV1
別名	VAV1; VAV; Proto-oncogene vav
遺伝子 ID	7409.0
SwissProt ID	P15498
免疫原	ヒト Vav のリン酸化部位 (リン酸化 Tyr174) 周辺の合成リン酸化ペプチド

背景

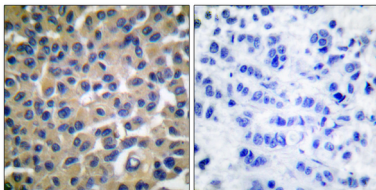
この遺伝子は VAV 遺伝子ファミリーのメンバーです。VAV タンパク質は、アクチン細胞骨格の再編成および転写変化につながる経路を活性化する Rho ファミリー GTPase のグアニンヌクレオチド交換因子 (GEF) です。コードされているタンパク質は造血において

重要であり、T細胞およびB細胞の発生と活性化に関与しています。コードされているタンパク質は、HIV-1由来のNefタンパク質の特異的結合パートナーとして同定されています。これらのパートナーの共発現および結合は、顕著な形態変化、細胞骨格の再編成、およびJNK/SAPKシグナル伝達カスケードを引き起こし、ウイルスの転写および複製レベルの増加につながります。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。 [RefSeq提供、2012年4月], ドメイン:DH ドメインはCCPG1との相互作用に関与しています。機能:チロシンキナーゼシグナルをRho/Rac GTPaseの活性化と結合させ、細胞の分化や増殖を引き起こします。その他:「Vav」はヘブライ語アルファベットの6番目の文字を表します。PTM:チロシン残基がリン酸化されています。類似性:1つのCH(カルボニン相同)ドメインを含みます。類似性:1つのDH(DBL相同)ドメインを含みます。類似性:1つのPHドメインを含みます。類似性:1つのホルポールエステル/DAG型ジンクフィンガーを含みます。類似性:1つのSH2ドメインを含みます。類似性:2つのSH3ドメインを含みます。サブユニット:CCPG1と相互作用する可能性があります(類似性による)。APS、DOCK2、GRB2、GRB3、DOCK2、SLA、ZNF655/VIKと相互作用する。SIAH2とは相互作用するが、分解には至らない。BLNK、PLCG1、GRB2、NCK1とはB細胞抗原受容体依存的に会合する。CBLBと相互作用し、チロシンリン酸化を阻害し、活性をダウンレギュレーションする。SHBおよびCLNKと相互作用する。組織特異性:造血細胞で広く発現するが、他の細胞種では発現しない。、

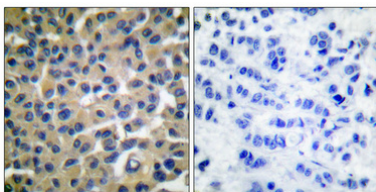
研究分野

ケモカイン; 接着斑; ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害; T細胞受容体; B細胞抗原; FcイプシロンRI; FcガンマRを介した貪食; 白血球の内皮透過移動; アクチンと細胞骨格の調節;

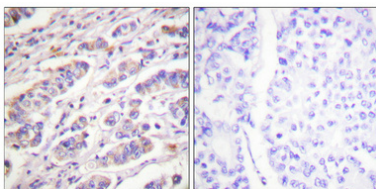
画像データ



VAV1 (リン酸化 Tyr174) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。右の写真はVAV1 (リン酸化 Tyr174) ペプチドでブロッキングした画像です。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は1:100 (4°C、一晩)に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリスEDTA (pH8.0)を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は1:100 (4°C、一晩)に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリスEDTA (pH8.0)を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。